

脳

の扉を開いてください!

スッキリ! はっきり!!

挑戦!

トリックイラスト

1

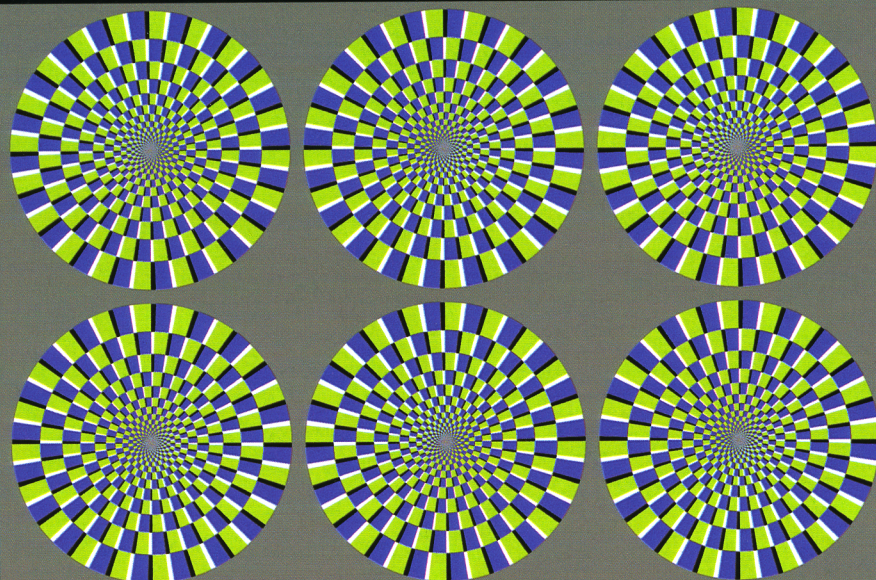
Series

静止画が動いて見える…!!

永遠に廻り続ける!?

最適化型フレーザー・ウィルコックス錯視

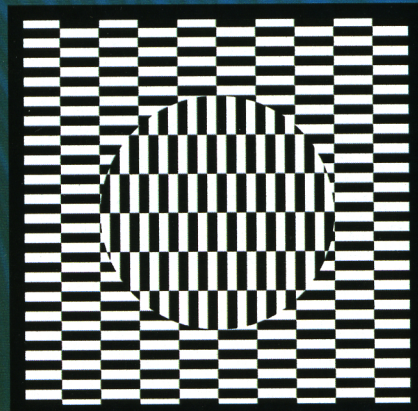
1979年にフレーザーとウィルコックスが発表した図を元に、北岡氏と藤田氏が2003年に最適化したのがこの錯視。対象を眺める際に「神経細胞を誤動作させる刺激を見ると、静止画が動いて見える」といった説がある。



「一枚の絵が異なるデザインに見える!」そんな不思議な二次元の世界に誰もが一度は触れたことがあるはず。しかし、錯覚世界は日々進化を遂げ、いまや「動いて見える静止画」までもが登場。そんな驚きのデザインを続々と紹介していこう!

内側の模様が移動中~

オオウチ錯視



シュビルマンらによって発見された錯視。目は意図しなくても常に微小に動いており、脳にとって景色は常に動いているように見えている。その動きの方向を神経細胞が正しく認識できず、情報統合が失敗した例として、この錯視が起こっている。

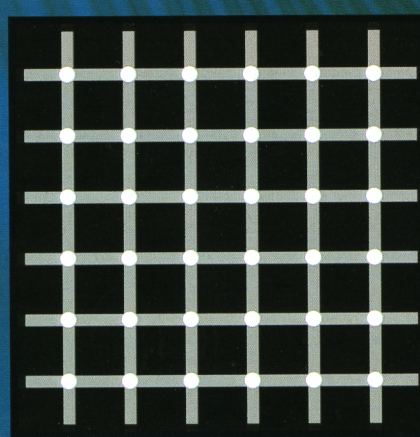
2

Series

無色なのに何かが見える!?

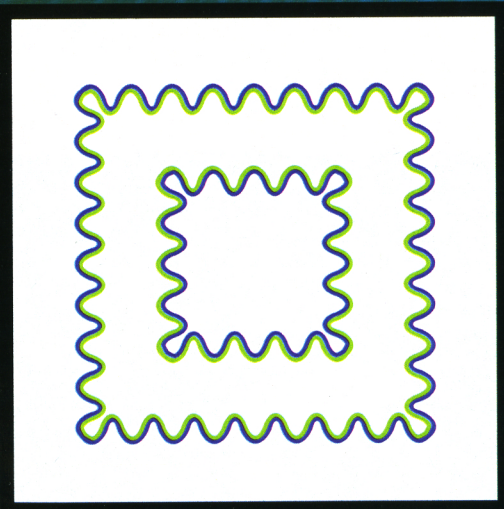
キラキラ輝く交点部分★

きらめき格子錯視



シラオフらにより発表された交点部分がキラキラ見えるこのデザイン。実は交点の箇所には何も記されていないのだが、それも脳の仕組みがなせる奇妙な技! 画像を脳内で処理する際、交点部分が相対的に暗く見えるという働きが起きているのだ!

2001年イタリアのピンナらが発表したデザイン(本図は北岡氏による作図)。境界線の明るさやテクスチャ、色は一樣で何もないスペースに広がって見えるという脳の仕組みがある。これが作用し緑色の境界線が真っ白な部分に広がり、スペースが薄緑に見えるのだ!



薄緑に見えるも実は真っ白!
水彩効果

次ページからはクイズに挑戦!